

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

血液バイオマーカー：その後の展開

脳機能画像診断開発部 脳機能診断研究室

中村 昭範 室長

2019年7月11日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

認知症対策は我が国のみならず世界的に喫緊な課題であるが、現状では根本的な治療法や有効な予防法は存在せず、その開発も苦戦している。この現状を打破するために、脳の病理・病態を反映し、大人数の集団でも利用可能な血液バイオマーカーの開発と実用化が切望されている。最近我々が島津製作所・田中耕一質量分析研究所と共同で開発に成功したアルツハイマー病(AD)の脳内アミロイドβ(Aβ)蓄積を高精度に捉える血液バイオマーカーは、そのポテンシャルから世界的に非常に大きな反響を呼び、認知症の治療薬や、効果的な予防法・発症遅延法の開発に貢献できるものと期待されている。

本報告会では、その後行った新たな解析結果を中心に発表し、この血液バイオマーカーが脳のどのような病態を捉えているのか、そしてそれが臨床応用上どのような意味を持つのか、といった考察を進めて行く。

また、血液バイオマーカーをめぐる世界の現状や現在の課題、更に今後の研究の方向性についても報告する。